

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (9月23日実施)	総合評価 (3月7日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	組織的授業改善に取り組み、生徒の主体的な学習の推進と基礎学力の向上を図る。	①生徒自らが考える学習活動の推進を図る。 ②生徒が主体的に学ぶ授業を、継続的かつ効果的に展開して基礎学力の向上と発展的思考力を身につけさせる ③教科とグループが連携を取り授業改善に向けた具体的な取り組みを推進していく。	①生徒の進路実現へ向け、自学自習の習慣を身につけさせる ②アクティブラーニングの効果的な導入やICT機器を用いた動機付けなどを行い、自ら考えようとする姿勢を伸ばす。 ③各教科で授業改善の目標や教材の共有を図り、定期試験問題と評価方法の共通化を目指す。	①家庭学習の時間の確保や生活習慣の確立が図れたか。 ②言語活動や調べ学習、発表などを効果的に取り入れることができたか。 ③教科内で指導内容や定期試験問題、教材、評価の方法などを共有することができたか。	①担任、教科担当者の学習・進路指導で家庭学習に対する意識を改善することができた。 ②数学と英語の習熟度別学習や小集団学習を実施した。 ③各教科で生徒の学習活動を増やす授業に取組んだ。 ④深い学びに繋がる授業づくりの取組みが教科により差があった。 ⑤各教科で試験問題、教材、評価方法を共有できた。	①学習を振り返るためのPDCAシートなどを工夫する。 ②生徒の学習活動をより向上させるために、生徒による授業評価を用いて改善する。 ③ICTなどの機材・教室設備がまだ十分でない。 ④生徒への意識付けを図るため、キャリアグループや学年との連携を密にする。	①宿題や補習指導の実施は、家庭学習の時間を増やしている。 ②生徒の深い学びのための授業方法についての教員研修は生徒の理解度向上に繋がっている。 ③習熟度別学習や小集団学習は、生徒に目が届いて効果的である。 ④3年生の遠足の内容変更に伴い、学習内容の充実を図る必要がある。	①生徒の学習に対する取り組み状況を測るための方策を立てる必要がある。 ②小集団学習、習熟度別学習、特別時間割などで一定の学習効果が認められたが、次年度に向けた修正や改善を行っていく必要がある。 ③入学当初の進路目標に対し、学年が進むと自分の学力にあわせて目標を下げてしまう傾向が見られる。	①自分の進路実現のための「学習の動機付け」方法について学習指導Gで「PDCAシート」を検討し提案する。 ②生徒による授業評価だけでなく、授業方法そのものについてのアンケートを実施し、生徒のニーズに合った授業改善に取り組む。 ③進路目標と生徒自身の学力のマッチングを図った進路指導方法および学習指導方法を具体化し、前期中に職員に示して取り組む。
2 生徒指導・ 生徒支援	きめ細かな生徒指導と教育相談体制により、生徒の心身の成長を支援する。	①生徒の規律意識や生活習慣等の生活指導を継続していく。 ②交通安全や薬物、インターネット等に対する生徒の意識改善に取り組む。 ③生徒支援体制の充実を図る。	①いじめ防止の観点から生徒の日常生活の様子を十分に観察し、未然防止を図る。 ②日常の保健指導や各種講演会を通しての大切さを理解させるとともに、スクールカウンセラー等と協力し、教育相談の充実を図る。	①いじめ防止に向けた取組を推進し、未然防止を図ることができたか。 ②講演会を実施して振り返りを行い、いのちを大切に心が育まれたか。	①神奈川県いじめ防止基本方針の改定にともない、いじめ防止対策マニュアルを見直した。 ①平素から生徒の日常生活に留意し、いじめを防止した。 ②スクールカウンセラーとの連携につとめ教育相談活動を充実させた。	①今年度は職員研修を実施できなかった。ネットいじめに対し、最新の知見を得るため職員研修を行う。 ②生徒の些細な変化に対応できるように、さまざまな機会をとらえて生徒理解を図る。	①真面目でおとなしい生徒が多く、子どもを安心して通わせることができる学校である。 ①穏やかな校風の維持を望む。 ②通学路が狭いので交通指導や通学指導の充実を望む。 ③いじめについて教員の目配りや配慮がある。	①生徒たちの人間性の成長を育むとともに、生徒の些細な変化に対応できるような職員研修を実施出来なかった。	①最新の知見を得るため職員研修を行う。
3 進路指導・ 進路支援	キャリア教育を充実させ、生徒の人間力の拡大と高い進路実現に努める。	①豊かな人間性を育み、国際社会で活躍する人材育成を目指して、さらなる国際理解教育の充実を努める。 ②進路指導プログラムの精査を行い、進路や生き方についての生徒の意識を高めるための指導法の研究を進める。 ③進路希望実現に向けたキャリアプランニング能力の育成と個別の進路支援の充実を図る。	①海外修学旅行、国際理解講演会、大学留学生との交流会、英語によるスピーチフェスティバル、異文化体験教室等国際交流に関する様々なプログラムを生徒に提供することで、異文化理解や他者理解を進め、自己理解につながる教育活動を行うとともに英語活用能力の向上を目指す。 ②各学年に講話型プログラムと進路選択型プログラムをバランスよく配置するとともに、進路実現のため主体的に活動できるための工夫・研究を進める。 ③スタディサポート・GTEC(英語コミュニケーション力総合テスト)や模擬試験を活用し、個別指導の活用に向けたさらなる工夫・研究を進める。	①国際社会で必要とされる資質を高めるためのプログラムの改善が生徒の意欲や行動の変化につながったか。 ①国際交流・異文化理解の機会を生徒に十分提供することができたか。 ①生徒が自ら行事に参加し、英語を活用したコミュニケーションに積極的に取り組んだか。 ②進路や生き方についての生徒の意識の変容が見られたか。	①国際社会における諸問題の認識を深め、その解決のために自分に何ができるかを考えるように変化してきた。 ①学内外の留学生との交流を経て、異文化理解・他者理解とともに日本文化と自己理解を進めることができた。 ②1学年よりオープンキャンパスへの参加を充実させ、2学年で進路分野別説明会を行った。 ②1・2学年合同の大学模擬授業を実施し、22大学22講義を行った。 ②5月・10月の1日の学習時間調査(定期テスト1週間前の一人平均) 1学年 5月1時間49分 10月1時間38分 2学年 5月1時間46分 10月2時間07分	①授業や課外活動での国際人育成を意識したプログラム内容の向上に努める。 ①様々な国際理解や交流の機会に多くの生徒が参加できるよう、プログラムの内容や提供方法を工夫する。 ②進路行事の振り返りを記録として残せなかった。ポートフォリオを充実させ、3年間を通じた進路や生き方の意識を高めさせる必要がある。 ②学習時間調査を継続的に行い、生徒の学習状況の把握を行う。 ③新規の高大連携事業を行うことができたが、参加生徒が特定の部活動に限られた。	②進路指導は担任が頼みの綱となっている。2年生の三者面談でさまざまな入試制度を知ることができ、3年生で早く準備することができた。 ③模試などは今後も継続して実施すべきである。	①学校全体が、異文化を自然に受け入れることのできる環境になってきた。 ①授業に限らず、英語で表現する活動に主体的に取り組む姿勢が見られるようになったが、まだ積極性に欠ける部分がある。 ②進路指導プログラムを系統立てて実施した結果、進路や生徒の意識を高め、家庭学習の変容が見られた。 ②家庭学習時間の把握はできたが、まだ十分とは言えない。引続き家庭学習の調査を実施していく。 ③高大連携事業を多くの生徒が活用できるよう啓発活動とともに生徒が参加しやすい環境づくりを検討する。	①グローバル社会の厳しい現状を理解するために、学校全体として常に世界情勢を意識した教育活動を行う。 ②総合的な学習の時間を活用し、進路とキャリアプランニング育成を図る。 ②ICT機器の整備と充実を図り、ICTを活用した授業を推進する。 ②ポートフォリオとして平成30年度から民間のシステムを導入し、職員研修を実施した。今後、記録の充実を図る。 ③高大連携活動が円滑に進むよう日程調整し、単位修得等を検討する。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (9月23日実施)	総合評価(3月7日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・ 進路支援 (続き)	キャリア教育を充実させ、生徒の人間力の拡大と高い進路実現に努める。	④部活動・生徒会行事・ボランティア活動・地域貢献活動等の体験を通じて、他者理解を深め幅広い人間力の向上と自分の考えを積極的に表現し行動できる力を身につけさせる。	④部活動のより一層の活性化のため、新入生仮入部制を導入し、具体的な環境づくりやコーチングスタッフ等を整備し生徒の安心・安全の確保に努める。 ④生徒会行事「宿志祭」体育部門・文化部門などは特に伊勢原養護学校分教室と連絡を密に図り生徒同士がともに考え、協働して成し遂げられるよう支援する。 ④福祉委員会を中心に、全生徒が自らの意思で参加する地域貢献やボランティア活動を積極的に取り組めるよう全面的に支援・推進する。	③進路実現のための情報収集や体験学習等に参加し、生徒の進路目標が明確になったか。 ③各到達度試験の結果を検討し、生徒にきめ細かな指導ができ、学習意欲が向上したか。 ④仮入部制度導入で部活動の加入率や実績等は上がったか。 ④「体育部門」・「文化部門」・「球技大会」の行事はアンケート等の結果で課題や改善点があったか。 ④地域貢献やボランティア活動の体験者数は増えたか。	2学年で家庭学習定着の変容が見られた。 ③新たに神奈川工科大学との高大連携事業を行った。 ③各模擬試験の結果からデータの分析と振り返りを行った。 ④新入生対象の仮入部制を導入したが部活動加入率は76.4%と昨年度を若干下回った。 ④文化祭と体育祭を今年度から「宿志祭」とし、伊勢原養護学校分教室(以後「分教室」とする)と協働して実施して内外から一定の評価を得ることができた。 ④福祉委員会と分教室が連携し、駅前広場の花の植え付けや除草作業などを計画的に実施することができた。	④部活動の中途退部の傾向がやや見られ、生徒のメンタル面について顧問と担任が連携を図る体制を構築する。 ④「宿志祭」体育部門・文化部門の実施アンケート結果をグループと準備委員会で検証し、次年度に向け改善を図る。 ④ボランティア活動体験の実態調査の結果を踏まえ、分教室と連携しながら生徒の自発的な取り組みを推進していく。	④若手教員が生徒とともに行事をつくるなど活躍している。 ④上位大会で活躍する部活動生徒が他の生徒・保護者を元気づけている。	④部活動加入率は昨年度を若干下回っているが、陸上部をはじめ各部の実績は向上傾向にある。 ④「宿志祭」では一定の成果を上げることができたが、分教室との協働はさらに連携を密にして取組みたい。 ④地域貢献活動やボランティア活動など一定の体験者数を得ているが、さらに参加者を増やしたい。	④課題である部活動活性化に向け、特に減少傾向にある運動部の加入率アップを図るための仮入部制度を部分変更する。 ④生徒が主体的に行事や地域貢献活動などを行うシステムづくりを構築し、保護者や地域との連携を密にして、分教室との協働活動についても積極的に取り入れていく。
4	地域等との 協働	積極的な情報発信と保護者や地域との連携により、学校の教育力を高める。	①内容的に充実した広報活動を積極的に行う。 ②分教室や地域の小中学校・大学、そして企業との連携を図る。 ③PTA、学校評議員など外部人材を積極的に活用していく。	①広報活動の方法や内容を検証し、その向上に努め、正確な情報発信により地域・保護者の信頼を得る。特に学校説明会では生徒の活動を取り入れて工夫する。 ②地域の民間企業等との連携を推進し、地域の教育力を積極的に活用する。	①本校の教育活動・入学者選抜の正確な情報を、中学校・生徒・保護者へ積極的に発信できたか。 ②地域及び民間企業と連携し、外部教育力を活用した教育活動により、生徒の視野は広まったか。	①夏の学校説明会では、生徒会本部役員から生徒目線で見えた本校を紹介させることで、中学生やその保護者に響く内容とすることができた。 ①HPについて、閲覧者に分かりにくい部分があり、更新もスピーディでなかった。 ②日産テクニカルセンターと連携し、今年度も多くの外国人従業員による英語の授業を行う予定である。 ③PTA・学校評議員の方々の力を十分活用できた。	①学校説明会を中心とする広報活動において、さらに生徒の活動を幅広く取り入れる方法を模索する。 ①HPの構成を見直し、頻繁に更新する手立てを考える。 ②日産テクニカルセンターや東海大学との連携事業を継続的かつ発展的に展開していく。 ③外部の方々に協力いただける機会を新たに模索する。	②通学路が狭く危険なため、地域と連携して道路の拡幅整備の働きかけが必要である。 ②電車が止まった時の地域との連携方法や帰宅方法を考えさせる教育が必要である。	①本校の特色については、地域社会でかなり認知され、教育活動にも理解を得られているが、地域を超えた枠組みで、本校の取り組みを紹介していくことが今後の課題である。 ②日産テクニカルセンターとの連携授業により、生徒が外国人スタッフの方々の母国に興味を持ち、主体的に英語によるコミュニケーションを取るきっかけとなった。しかしながら、まだまだ積極性に欠ける。 ③PTAとは十分な連携を取り、諸行事を充実させることができた。また学校評議員会のご意見を基に広報活動の改善に取り組むことができた。	①合理的な情報発信の仕方を新しいツールも含めて継続的に検討し、効果が期待できるものについては積極的に取り入れていく。 ②来校していただく日産のスタッフの方々を増やし、生徒一人あたりのコミュニケーションの時間を増やす。 ③外部の方々の意見を日常から多く収集する機会と手立てを考える。
5	学校管理 学校運営	事故・不祥事の防止に努めるとともに安心安全な学校環境を維持する。	①防災訓練を通し生徒が災害から自らの生命を守るために必要な能力や態度を育成する。 ②施設・設備等の点検と整備を行い非常用物資の備蓄管理を進める。	①防災訓練を(5月・9月)実施する。 ①DIG研修を実施する。 ②施設・設備等の点検と整備を行い非常用物資の備蓄管理を進める。	①防災計画の充実が図れたか。 ①防災訓練で、生徒は支障なく避難集合することができたか。 ②施設・設備等の点検と非常用物資の備蓄管理を計画的に進められたか。	①5月実施の防災訓練では避難経路の確認とシェイクアウトの実施、9月には生徒の自主避難を実施した。 ①DIG研修は伊勢原市企画部危機管理課の協力を得て生徒への研修を実施した。 ①今年度分の非常用物資の備蓄は完了した。 ②洋式トイレの設置とウォシュレットの設置を年度内に行う。	①職員に防災備蓄食料・防災機材について周知をし、継続して備蓄をすすめる必要がある。	②校舎は古いですが、トイレなどきれいに使っている。 ②洋式トイレが少ないので、少しずつ洋式トイレに改修していくべきである。	①避難訓練については全体集合の状況から集団として安全に実施できていると判断している。しかし、生徒個人レベルでは防災に対する意識の向上については、対象が毎年変わるため継続的に取り組む必要がある。 ②年度内にウォシュレットの設置を行う。	①今年度で2回目になる生徒対象のDIG研修を実施し多くの生徒は、いざという時の主体的に行動していくきっかけをつかめた。今後も継続指導していく。 ②洋式トイレの増設は今後も継続的に要望していく。